

お札降り

ご維新いしんの少し前、村の人々が、その日ぐらしに追われていたところのことだった。
《明治維新》
そんなある日のこと、ハツ屋新田やしんでんで、大きわぎが起こつた。

「えらいこつちや、えらいこつちや。」

「大家おおやさんのとこに、空からお札ふださんが降ふつてきたげな。」

「それは、それは、おめでてやあこつちや。おめでてやあこつちや。」

とある大家の屋根に、伊勢神宮いせじんぐうのお札が降ふつてきたのだ。一枚どころか、調べてみると、庭木の枝でも、蔵くらの軒先のきさきでもお札が見つかった。その家では、

「これは、たいへんありがたいことだ。」

「きつと、これから、いいことがあるにちがいない。」

と喜んで、店先に祭壇さいだんを設もうけてお札をお祭りし、酒や野菜などを供そなえた。そして、お参りにきた人たちに、接待せつたいとして酒やごちそうをふるまつた。

そのころ、ほかの村でもお札が降ふつていた。そこへ、接待をめあてに多くの人たちが、お参りに押おしかけた。その服装も型通りかたどおりではなく、そろいのハツピ姿だったり、

赤い手ぬぐいをかぶったりしていた。なかには、お伊勢参りの出で立ちをした一行があつたり、飾り馬を先頭に仮装した行列が続いた一団もあつたりした。押しかけた人々は、

「ええじゃないか、ええじゃないか、ええじゃないか。」

と、どこかまわぎした。

「酒を出しても、ええじゃないか。」

「ごつそうしても、ええじゃないか。」

「何をやっても、ええじゃないか。」

と、どこかまわぎせずに、らんぼうをするものも出てきた。



共和地区に伝わる話です。八ツ屋新田は、今の共和町ですが、「お札ふり」は、東海地方を中心に広い地域で起こっています。尊王攘夷運動がさかんになり、はげしく幕府と対立していたころ、戦いと不作のため、物価がたいへんな値上がりをしました。そんななかで、全国各地で一揆がおきました。これと同じころ、「お札ふり」や「ええじゃないか騒動」が起こりました。